

科目名	クラス	講義区分
日本語教授法 I < 通期 >		
<p>【教員氏名】 有川 康二 研究室: 聖アンデレ館 6 階 624 号室 メールアドレス: karikawa@andrew.ac.jp</p>		
<p>【授業形態】 講義 実習</p>		
<p>【講義・演習概要】 どんな教授法(教え方の哲学や方法)、どんな教科書にも長所と短所があります。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することです。そのためには、何が長所で、何が短所になるのかを理解しておかなければなりません。例えば、語学学習の命であるドリル(稽古)に関していえば、機械的な形の練習だけでなく、より現実に近い状況や会話の十分な練習があれば長所と言えます。日本語の初級文法に焦点を絞り、(教師のための)実践的な文法整理と、(学習者のための)効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行います。</p>		
<p>【学習目標】 一定の制限された状況(教室)や時間内(初級の集中コースとして例えば週 15 時間で約6か月)に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習(ドリル)を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別な知識と技術が必要となります。何語でもそうですが、ある言葉が母語としてべらべら話せることと、その言葉が外国語として学習する人に体系的、説得的に教えることのできる能力とは別物です。日本語の母語話者は日本語学習者と適当に世間話はできますが、初級の学習者に日本語の文法や文パターンを効果的、説得的に教えることはできません。初級レベルで学習者が興味を失ってしまったら、それまでです。ある意味では初級レベルが最も難しいと言えます。文法の質問から逃げる日本語教師は学習者には信頼されません。また同時に、「何故、私は外国語を学ぶのか? 何故、私は日本語を外国語として教えるのか? 日本語を教えるという仕事を通して私には何ができるのか?」という問いを問い続けなくてはならないと思います。</p>		
<p>【講義計画】 第 1 回: イントロ 外国語教授法のイロハとは何か? どんな授業がよいのか? どんな教材が必要なのか? どんな仕事に就ける可能性があるのか? 本学の先輩達は日本語教員資格を取得してどんな所で仕事をしているのか? 第 2 回: 指示表現(コソアド)(1) 第 3 回: 指示表現 (2) 第 4 回: 形容詞(イ形容詞/ナ形容詞)(1) 第 5 回: 形容詞 (2) 第 6 回: 存在表現(アル/イル)(1) 第 7 回: 存在表現 (2) 第 8 回: 時制(テンス)と相(アスペクト)(1) 第 9 回: 時制(テンス)と相(アスペクト)(2) 第 10 回: 保留形(テ形)(1) 第 11 回: 保留形(テ形)(2) 第 12 回: 願望の助動詞(ta/gar)(1) 第 13 回: 願望の助動詞 (2) 第 14 回: 可能の助動詞(e/(ra)re)(1) 第 15 回: 可能の助動詞 (2) 第 16 回: 様態・伝聞・推量の助動詞(アノばんハオイシノウダ/オイシノウダ/オイシイヨウダ/オイシイラシイ)(1) 第 17 回: 様態・伝聞・推量の助動詞 (2) 第 18 回: テイル・テアル・テオク(窓ガ開イテイル/窓ガ(ヲ)開ケテアル/窓ヲ開ケテオク)(1) 第 19 回: テイル・テアル・テオク (2) 第 20 回: 授受表現((テ)モラウ/イタダク, (テ)クレル/クダサル, (テ)ヤル/アゲル/サシアゲル)(1) 第 21 回: 授受表現 (2) 第 22 回: 態(受身(イジメラレル)・使役(イジメサセル)・使役受身(イジメサセラレル))(1) 第 23 回: 態 (2) 第 24 回: 条件表現(離婚シタラ~/離婚スルナラ~/離婚スレバ~/離婚スルト~/)(1) 第 25 回: 条件表現(2)</p>		

<p>第 26 回: 敬語(オ話しニナル/オ話しスル/オッシャル/申ス/ナサル/イタス等)(1) 第 27 回: 敬語 (2) 第 28 回: 復習と Q & A 第 29 回: 復習と Q & A 第 30 回: 復習と Q & A と試験</p>
<p>【成績評価の方法】 試験評価: 100% レポート: % 出席: % 毎回の出席は前提です。筆記試験は、自筆ノートやプリントは持ち込み可です。丸暗記は不要です。何故そういう風に考えるのかというロジックに集中してください。毎回、配付する質問コメント用紙(出席カードではありません)にいい質問やいいコメントをした人は、ボーナス点として加算されます。</p>
<p>【使用テキスト】 東京 YMCA 日本語学校『入門日本語教授法』創拓社</p>
<p>【参考文献】 三浦昭(1983)『初級ドリルの作り方』凡人社 岡崎敏雄(1989)『日本語教育の教材-分析・使用・作成』アルク Makino, S. and Tsutsui, M. (1986) A dictionary of basic Japanese grammar-日本語基本文法辞典 . The Japan Times.</p>
<p>【準備学習の指示(事前学習 60 時間、事後学習 60 時間)】 本学には世界の様々な国から留学生が来て日本語や日本文化について勉強しています。留学生の人たちと話をしてみてください。</p>
<p>【その他備考(担当教員用)】</p>
<p>【備考(管理者用)】</p>